

# 序

運動器領域の超音波検査（エコー）は、最初に整形外科の診療で利用されるようになり、その後、野球肘検診やスポーツの現場での診断や関節リウマチの診療など徐々に広がりを見せています。現在は神経内科での末梢神経の観察や、家族性高コレステロール血症の診断のためのアキレス腱評価にもエコーを使用するなど、多くの診療科にその幅が広がっています。

しかし、実際にエコーを使いこなしている医師の数はまだ少なく、エコー業界でも運動器はマイナーな領域です。

本書は、これから運動器エコーにチャレンジしようと考えている医師やメディカルスタッフの方や、もう一度基本的な手技を学びたい方のためにつくり上げた作品です。

本書では、運動器があやふやな方のために、可能な限り検査に直結する解剖図を掲載いたしました。ぜひ解剖の迷宮の扉を開けていただきたく存じます。

また、検査手技に関しては、CTの3D画像とプローブを当てている手元画像、エコー像をセットで掲載しました。手元画像は、さまざまな角度から撮影した画像のなかから、エコーに携わっていないスタッフの意見も取り入れた選りすぐりの画像です。

ちょっとしたコツについても、筆者が長年取り組んできたハンズオンセミナーでの講師経験を、「ワンポイントアドバイス」や「メモ」として掲載いたしました。

各章の岩本医師による症例画像の提示と画像の解説もあり、検査手技だけでなく疾患の所見も学べる、日常診療で直ちに役立つ一冊に仕上がっています。

もちろん、「鍵」となる動画もご用意してあるフルコースです。

超音波の基礎など、本来であれば書籍の最初に載せるべき内容を巻末に配置して、検査法と診断法を前面に出した構成に仕上げ、書籍をA5サイズにしてページ数も考慮することで、持ち歩きにも便利でいつでも活用していただけるだけでなく、検査の練習中や実際の検査の際もこっそり見ることを可能にしているのも本書の特徴です。手放せない逸品に仕上げたつもりですので、ぜひご堪能ください。

最後に、本書の執筆に協力してくださった、三井記念病院の臨床検査部のスタッフと忍耐強くサポートしてくださった羊土社編集部の皆様に深く感謝申し上げます。

2020年12月

著者を代表して  
石崎一穂